

留 学 報 告 書

記入日: 2015 年 1 月 7 日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部政治学科
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: アデレード大学 現地言語: The University of Adelaide
留学期間	2014 年 2 月～2014 年 12 月
留学した時の学年	4 年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3 年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2014 年 12 月 3 日
明治大学卒業予定年	2016 年 3 月



留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:3 月上旬～6 月下旬 2 学期:7 月下旬～11 月下旬
学生数	25,000 人
創立年	1874 年

留学費用項目	現地通貨(AU\$)	円	備考
授業料	0	0 円	交換留学のため
宿舍費	6,000	600,000 円	
食費	3,000	300,000 円	
図書費	300	30,000 円	
学用品費	100	10,000 円	
教養娯楽費	100	10,000 円	
被服費	200	20,000 円	
医療費	80	8,000 円	
保険費	1,500	150,000 円	形態: OSHC と明治大学指定の海外保険
渡航旅費	1,500	150,000 円	
雑費	1,000	100,000 円	旅行費
合計	13,780	137,800 円	

渡航関連

渡航経路:

成田→クアラルンプール→アデレード

アデレード→メルボルン→成田

渡航費用

チケットの種類	片道×2
往路	70,000 円
復路	80,000 円
合計	150,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

特に無い

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)

学生寮(大学が提供しているものではない)

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3) 住居を探した方法:

インターネット

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

家賃も安く、キッチンシェアする住民たちも非常にフレンドリー。特に不満はなかった。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

- 利用する機会が無かった
 利用した：可能だったと思うが、外部の病院にかかった。

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

あったが使わなかった。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

インターネット。特に被害などにはあわなかった。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例：寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

無料 wi-fi が主要な所では利用可能なので不便しない。寮のインターネットも快適。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例：現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

トラベラーズチェックで 10 万円分ほど持っていき、口座を開設した際に預金した。クレジットカードと現金の併用。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特になし

進路について

1) 進路

- 就職 進学 未定 その他：

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。

(例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

現在、就職活動中だが 1 年間の留学経験があるだけで参加することができるキャリアフォーラムなどもあるので、留学が悪影響を与えることはないと感じる。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Decoding China: Unity, Stability and Development	中国政治論
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 2
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture と Tutorial
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Czes Tubilewicz
授業内容	中国における諸問題についての文献を読み、ディスカッション。
試験・課題など	中間課題:与えられた文献の内容に基づき、ディスカッションペーパー(1000words)を作成し、チュートリアルで発表。 期末課題:1つトピックを選び、Redearch Proposal という形で、Literature Review や Methodology を含め、2500word
感想を自由記入	毎週の授業で30ページ程度の文献×2の内容について、ディスカッション。内容に関しての質問をしてもよいが、この授業で求められるのは、常にクリティカルな視点であるということ。その文献の方法論は適切か、根拠は十分か、結論は理にかなっているか、などを意識しながら文献を読み解かなければならない。期末エッセイは、「中国の家族文化の衰退と、高齢者自殺率の上昇」という題で執筆。教授は、冗談好きで面白いが、毎回のチュートリアルで 1 度も発言をしなかった生徒を名指しでさらし上げる為、気が抜けない。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Grobal Transformation	国際政治学
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 2
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture と Tutorial
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Benito Cao
授業内容	国際政治学の入門的内容。教科書のチャプターに沿って進んでいき、毎週異なるトピックに関してディスカッション。
試験・課題など	Multiple Choice Test が 1 回。中間レポート(1000words)と期末レポート(1800words)
感想を自由記入	内容自体はそんなに難しくなく、しっかり教科書を読んでいけばディスカッション等にも積極的に参加できる。1 年生向けの授業なので、チュートリアルでの学生の積極性もそんなにではなく、交換留学生でも教授と十分にアピールできる。中間エッセイは、リアリズムについて、期末エッセイは R2P について論じた。Benito 教授はフランクで学生からの人気も高く、エッセイについての相談なども時間をとって乗ってくれるた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Asia and the world	アジア文化論
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 2
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Tutorial と Lecture
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Gerry Groot
授業内容	アジアが世界に与えた影響を、食文化、武道、アニメなどの観点から見ていく。
試験・課題など	800words 程度の中間エッセイ、2 人ペアで行うプレゼンテーション、期末エッセイ 2800words。
感想を自由記入	レクチャーの内容は、中国、日本が世界に与えた影響や、韓国のポップカルチャーなどについて。正直に言うと、思っていた内容と違い、レクチャーにはあまり興味をひかれなかったが、チュートリアルは、チューターが全員の参加を促す形だったので、多くの発言の機会に恵まれた。他のクラスは、学生の大半がオーストラリア人だったのに対し、多くの留学生がこの授業を履修していた。教授は学生を食事に連れて行ってくれるようなフレンドリーな方だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Global Environmental Politics	環境政治学
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 2
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Tutorial と Lecture
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Timothy Doyle
授業内容	世界で起こった、環境問題に関する市民運動についての授業。
試験・課題など	Multiple Choice Test 1 回。中間エッセイ(1000words)と期末エッセイ(2500words)。
感想を自由記入	教授の英語に癖があり、聞き取りに苦労した。チュートリアルはチューターが担当。交換留学生に非常に親身になり、エッセイやプレゼンテーションの相談に乗ってくれたが、評価は甘くない。毎回のチュートリアルは、他の学生のプレゼンに対して、各々が質問、発言などをしていくスタイルだったので、発言の機会には恵まれた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Professional English(ESL)	上級英語
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Workshop
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	Kerrie Le Lievre
授業内容	英語を第二言語とする留学生に向けたクラスで、ビジネスメールやリファレンス、Literature Review の書き方などを学ぶ。
試験・課題など	ビジネスメール、Literature Review、リファレンスなどの課題提出。期末試験は、ビジネスメールと Literature Review を 2 時間半で書く。
感想を自由記入	留学生に向けた授業であるが、履修者の英語能力は極めて高い。課題等は、普段の授業に出席していれば一切問題ない。リファレンスやレビューの書き方など、実際の留学生活に必要な知識が身につくので、semester1 に履修する科目としては非常に有意義だった。試験も課題の延長といった形で、他教科と比べると大分余裕のある授業だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Comparative Politics of Rising Powers	比較政治学
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture と Tutorial
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Czes Tubilewicz
授業内容	アメリカ、EU、中国、ロシア、日本などの主要な国々の政治システム、経済力、諸問題などの紹介。チュートリアルでは関連した内容のディスカッションや、チームにわかれたディスカッションを行う。
試験・課題など	学期の最後にグループプレゼンテーション。普段のディスカッションへの参加や、チームでのディベートでの貢献度などによって評価。期末試験は、3 時間で論述3題。
感想を自由記入	前期だったこともあり、1 番苦労した授業であった。チームに分かれディベートをするのだが、毎週のリーディングに加え、追加で文献を読み、準備しなければならなかったので非常に時間がかかった。最初はチーム内の話し合いでも、うまく自分の意見を伝えることができず、悔しい思いをしていたが、ある回のディベートのテーマが日本に関することであった為、それをきっかけにチーム内、またはクラス中でも発言ができるようになった。テストは、あらかじめ問題の一部が知らされていた為、答案を準備して臨めば問題なかった。グループプレゼンテーションは、1 人の持ち時間は5分程度であり、役割を分担したこともあり、あまり負担ではなかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Globalization and Citizenship	国際化と市民権
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	LectureとTutorial
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Benito Cao
授業内容	Citizenshipに関する理論、歴史等を学ぶ。チュートリアルでは毎週のトピックに関して、ラウンドテーブル式でディスカッション。
試験・課題など	中間エッセイ 1000words 期末エッセイ 2200words
感想を自由記入	上級生向け授業ということもあり、初めは他の学生の積極的な姿勢や、発言のレベルの高さに圧倒された。完全に挙手での発言となるため、学期の前半はほとんど発言できず、授業を終えることもしばしば。小さなグループでディスカッションをする機会もあり、そういった経験を通じてクラスでの発言にも慣れていった。エッセイに関しては、どちらも書きやすいトピックを選んで書くことができたため、納得のいく内容で高い評価を得ることもできた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Japan Today: Politics & Governance	日本政治論
科目設置学部・研究科	Humanity and Social Science
履修期間	Semester 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	TutorialとLecture
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Purnendra Jain
授業内容	日本の政治に関する授業。レクチャーでは官僚制、政治システム、など週ごとにトピックが変わり、チュートリアルでは学生のプレゼン内容を基にディスカッション。
試験・課題など	中間テストが1回。期末エッセイ 3000words。
感想を自由記入	日本政治の授業だったので、内容自体についていくのは容易だが、自身のプレゼンの際に深く突っ込まれた質問を学生からされて、非常に戸惑った。他のチュートリアルに比べて、あまり積極的に発言する学生がおらず、教授から名指しで質問されることもしばしば。期末エッセイは結局1年間を通じて最長のものであったが。毎週のリーディングはせいぜい50ページ程度なので、あまり負担にならない授業だったといえる。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2013年 1月～3月	アデレードへの短期留学
4月～7月	IELTS/toefl
8月～9月	面接対策
10月～12月	書類準備
2014年 1月～3月	学部の教授の先生が主催して下さった勉強会への参加
4月～7月	Semester 1
8月～9月	Semester 2
10月～12月	Semester2 帰国

留学体験記

留学しようと決めた理由	2年時の終わりに行った短期留学を通じて、自らの見識の狭さに気づき、世界に出て色々な人々と関わりたいという思いから、交換留学への出願を決意しました。また、元々英語が得意であるという自負がありつつも、就職活動等で強みといって差し支えないものなのか、というところで自分の中で葛藤があり、そういった意識も留学への決意を後押ししました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	留学の前に、英語でのエッセイの書き方、リファレンスの仕方などを一通り勉強しておくべきだったと痛感しました。全ての授業で最低でも 1000words の中間エッセイ、2000words 以上の期末エッセイが出るため、学期中のほとんどの期間は常に課題の締め切りに追われる毎日でした。また、エッセイに関連して、英語でアカデミックな文献を読むことに慣れておくことも間違いなく大切だと思います。
この留学先を選んだ理由	以前、アデレード大学付属の語学学校での語学研修プログラムに参加したことがあり、その時の好印象が基になり、交換留学先としてもアデレード大学を選びました。オーストラリアを選んだ大きな理由としては、就職活動の時期を鑑みた時に12月に帰国できる、という点が非常に都合が良かったということがあげられます。また、シドニーなどの大都市と比べ、日本人の比率が圧倒的に少ないというのもアデレードを選択した大きな理由の1つです。
大学・学生の雰囲気	アデレード大学で特徴的なところは、勉強熱心な学生が多いということと、様々な年齢、出身の学生がいるということです。24時間 Hub と呼ばれる建物が開放されているのですが、テスト前は深夜でも多くの学生が勉強していました。また、様々な国から来た学生がいるだけでなく、30歳～40歳程度の学生も多く、そんな彼らとクラス、課外活動を通じて友人になれたのは、海外の大学ならではの感覚です。
寮の雰囲気	私が選んだ寮は、大学が提供しているものではなく、シティから少し離れたところにある寮でしたが、落ち着いた雰囲気、学生だけでなく、インターン生や研究者など様々な住民に囲まれました。毎週日曜日は、20人程度でそれぞれ料理を作って持ち寄り一緒に食べる食事が開催され、多くの交流を持つことができました。また、何度か大学の寮の方にも遊びに行ったことがありますが、ピザパーティーなど、外にも開かれたイベントが頻繁に開催されていました。
交友関係	寮の友人、日本語サークルの友人、留学生の友人、地元コミュニティの友人、クラスで知り合った友人など多くの友人に恵まれました。特に、現地で活動していた日本語サークルの友人たちとは留学中の多くの時間を共に過ごし、現在でも連絡を取り合う一生の友情を育むことができました。また、大学外でも、教会などの地元コミュニティに顔を出すことで様々な人々との交流をもつことができました。
困ったこと、大変だったこと	前期は特に勉強面で大変な苦勞をしました。リファレンス、エッセイの書き方などもあやふやなまま、毎週のリーディングやディベートの準備に加え、中間エッセイなどの締め切りに追われ、かなり余裕のない毎日を過ごしていました。また、そのような状況の中でも食事や洗濯を当然自分でやらなければいけないため、時にはストレスを感じることもありました。
学習内容・勉強について	政治学を明治大学で専攻していたので、アデレード大学でも政治関係科目を多く履修しました。いくつかの授業でペアワーク、グループワークがあるものの、基本的にはエッセイの執筆がメインの課題でした。多くのクラスメートは非常に親切で、留学生の私が授業についていけないか、何かわからないところはないか、などを常に気遣ってくれ、授業外でも相談等に応じてくれました。レクチャーの中でわからなかった部分は、大学のマイページから履修している授業の録音がいつでも聞けた為、テスト前は特に重宝しました。
課題・試験について	課題の多くはエッセイであり、大体 1000～3000words の範囲で自由に論じます。執筆自体よりも、リサーチに費やす時間が莫大で、課題の締め切りに常に追われる毎日だったと言えます。試験に関しては、四者択一式の中間テストなどが多く、普段しっかりとしてレクチャーの予習復習をしておけば、特に苦勞するようなものはありませんでした。
大学外の活動について	教会などの地元コミュニティに積極的に参加するように努めました。また、隣に位置する UniSA に通う友人を作り、其方で開かれるイベントなどにも招待してもらい、学内を超えて友人を作ることができました。日本人ということで、興味を持ってもらえることも多く、日本語サークルでの活動も手伝って、日本語の授業の補佐や、カルチャーイベントのボランティアなどに参加することもありました。

留学を志す人へ	「語学留学ではない」ということに、ある種のプライドをもって臨んでください。日本からだけでなく、多くの留学生はいますが、彼らを良いライバルと考え、自分自身の努力の原動力にしてほしいです。課題や試験が苦しくて、投げ出したくなることもあるかとは思いますが、自分が何のために留学に来ているのか、ということを常に考え、実りのある留学生活にしてほしいと思います。
---------	---

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	日本語サークル			日本語サークル	授業		教会
	自習	授業	授業	授業	授業	自習	教会
午後	授業	授業	友人と昼食		自習	友人と昼食	自習
	授業		授業				自習
夕刻	自習	自習			交流会	自習	友人と夕食
夜	自習	自習	自習	自習	交流会	友人と夕食	